

額川 晋

静謐さに満ちた孤高の求道者

文 高橋 誠

Text by Mac Takahashi

・ 学校法人慈恵大学広報推進室長
・ 医療・健康コミュニケーター

泌尿器科学をウロロジイといひます。

2017年、慈恵医大の額川晋教授（アジア泌尿器科学会教育委員長）は、世界のウロロジイ学会の舞台で称賛を浴びました。ヨーロッパで、日本人として10年ぶり2人目の名誉会員に、アメリカで、唯一の日本人としてグローバルリーダーシップ賞（新設）に推戴されたのです。過去10年、複数の主要国際学会を横断す



「米国泌尿器科学会グローバルリーダーシップ賞」受賞風景。医学書に登場する世界の権威に並び登壇する額川教授（左から4番目）。日本が誇るべきシーンである。

る教育ワークショップを構築、世界の若手ドクターのスキル向上に貢献した成果です。

額川医師は本誌で2009〜2014年、『江戸しぐさという粋なマナー』、『人の距離感の不思議』など、独特な観察眼で日常生活や診療活動での雑感を執筆しました（全61回）。学術論文、エッセイと硬軟織り交ぜ発揮されるマルチで非凡

な才能をお持ちです。

孤高のスーパーゼネラリストが担う進歩への責任

「自分が磨いたオハ技術が要らなくなってもいい」

前立腺がん腹腔鏡下手術の世界的権威でありながら、誰にでも丁寧な言葉を使い、常にこやかな表情で相手の話に耳を傾ける人柄で、「ワクチン治療で前立腺がんが治る未来がくればリセットも惜しくない」と磨いた技術にも執着していません。大学では広報委員長としてホームページの英語翻訳、大学全体のブランドデザインまでこなす稀有なスーパーゼネラリストです。末期がんを克服したタレントの小西博之さん（コニタン）が著書『生きてるだけで150点！』で、「主治医の額川先生は完治がわかったとき、オペ痕のV字は勝利のVサイン！と泣いて喜んでくれたので、大きな傷が気にならなくなりました。病の克服にはドクターと心を通わせるのがいちばん」と心温まるエピソードを披露しています。一点を見つめる知的な視線と静謐な雰囲気。内に秘めたパッションが発露したバ



Profile

学校法人慈恵大学広報推進室長。医療・健康コミュニケーター。東京生まれ横浜育ち。慶応義塾大学経済学部卒。ミスノ広報宣伝部、リクルート宣伝企画部、米国SPBC社New Design Conceptor（LA在住12年）、仙生露Executive PR Adviser、富士1ばんゴルフ副支配人/経営企画室長/広報室長を経て、2004年より現職。日米複数企業における広報・マーケティング経験から、難解な医療・健康をわかりやすくメディア・社会に伝えるべく、病院広報担当者間の勉強会「病院広報研究会」を立ち上げ、医療・健康コミュニケーション活動を研究中。趣味はゴルフ（Hdcp9）、ワイン（日本ソムリエ協会ワインエキスパート#58）。



額川 晋氏の著作

『前立腺がんは怖くない（小学館新書）』：編集が10人を超える医療関係者にベストウロロジドクターを尋ねると、全て「慈恵の額川」と返ってきた。国内外での名声は確固たるものといえる。

ワフルなドライバーショット。孤高の求道者にはいつも愉快的な時空が流れてゆきます。